

# 太神宮 あちこち

第1回 外宮 北御門  
神宮司庁広報課長 石垣 仁久

江戸時代、神宮の一般的な呼称は太神宮でした。太の文字は太いという意味ではなく、最も立派な、「大々神宮」を表しているのです。厳密には内宮を指しますが、両太神宮という呼び方もありました。今回から始まる連載は、少し懐古的にして「太神宮あちこち」としてみました。

さて、第一回は外宮の北御門から始めます。「御門」と言いますが、北の入り口のことと実際に門はありません。内宮の神主が外宮前を通る時には必ず馬や駕籠を下りたほど大事な場所でした。

外宮の正面玄関は表参道で、昔から天皇の使者は表から参入しましたが、参宮者の多くは北御門から入っていたようです。宮川を渡り、筋向橋方面から外宮に向かって来るのですから、北御門の方が都合がよかったです。

道中、食事や金子の施行を受けた柄杓は参宮者の象徴でもありました。その柄杓を北御門橋で豊川に流す風習がありました。

この北御門橋は豊川橋とも

いい、現在の火除橋に当たります。参宮者はこの橋で馬や駕籠を下り、そこからは一切の武器や仏具の持ち込みが禁じられていました。この風習を『伊勢参宮案内記』は、神を敬い奉るゆえの習わしと記しています。

北御門には古くから鳥居が立っていたようで、北御門口鳥居、北御門の鳥居、または北鳥居とも呼ばれていました。いずれも北の神門という意味です。多賀宮の鳥居ではないかといわれた時代もありましたが、それは間違いのようです。

『太神宮参詣記』には北御門は毘沙門天の垂迹の跡と紹介されています。毘沙門天が北方の守護神で、別名を多聞天ということから生じた伝承かと想像します。

また、かつては北御門社という小さな社がありました。『倭姫命世記』などは、若雷命をまつり、京都の賀茂神社の祭神と同じとしています。これは賀茂神社が京都の北方に鎮座していることと関連しているのかもしれない

ん。また江戸時代は米沢藩の上杉家が造営を担っていました。謙信公以来の毘沙門天信仰によるものでしょうか。

前出『案内記』によると、地元の人々は旅行の前の首途にこの社に参拝する習わしがあったようですが、当時でもそのことを知っている人は希であると記されています。最後に、外宮に伝来した神楽歌に「北御門の歌」がありますので紹介します。

## 北御門の歌

宮へまことに参られば、  
北の御門より参られよ。  
北の御門より参ればぞ、  
万の願ひを満て給ふ。  
榊葉に幣帛副へて誰が世に、  
北の御門と齋ひそめけむ。  
大空に踏み轟かす鳴る神は、  
土に降りては社とぞ成る。  
北御門鳴る雷は宝にて、  
昨日も今日も夕立ぞする。  
北御門鳴る雷七竜八竜九竜、  
三所に遊びの上分を進らす賛聞こしめせ玉の宝殿。  
北には高き山あるぞ、  
松の林に高き岡、  
日山山中の間に、  
万の願ひを満て給ふ。  
〔神宮近世奉賽拾要〕増補  
大神宮叢書23所収 なお一部  
仮名を漢字に改め、句読点を  
付しました)

## 租税教室

今年度も、女性部会の皆さんが管内各小学校を訪れ、租税教室の講師となり児童の皆さんと、税金の勉強をいたしました。これからも、税金の大切さを伝えていきたいと思っています。



## 新たな活動

～A・B・Cブロックからの報告～

Dブロックの活動に続き、A・B・Cの三つのブロックの新たな活動が始まりました。三月 二日(火) Aブロック 三月 六日(金) Bブロック 三月十三日(金) Cブロックと開催いたしました。おいしい御食事を頂きながら、意見交換をいたしました。大勢参加頂き、有難うございました。

## 講演会のお知らせ

平成二十八年四月九日(土) 伊勢市観光文化会館にて「櫻井よしこ氏講演会」を予定しております。詳細は次回に掲載させていただきます。お楽しみに。

